

# 環境報告書

## 2021年度



**SDGs**  
REGISTERED PARTNER  
NAGANO PREFECTURAL  
GOVERNMENT

 株式会社 **サニヨー**

## ◆ごあいさつ◆

私ども、株式会社サンコーは、1963年創業以来、世の中の変化に応じ、高難度部品加工への挑戦を重ね活躍のフィールドを広げて参りました。そして、お客様が求めるものづくりを通して信頼関係を築き、必要性を認められる存在になってきました。これからも、製造業を通して、世の中に貢献出来る企業であり続けたいと考えています。

さて、昨今の環境問題に目を向けると深刻さが増してきております。例えば、地球温暖化により、海面の水位が上昇し海拔の低い土地が水没してしまう恐れや、集中豪雨による河川の決壊などで、水害が多発しています。全世界的に持続可能な地球環境の保全への対応が求められています。このような中、当社では、ISO14001を2004年に全工場で認証取得し、環境負荷を低減させたものづくりを推進しております。本システムに基づく環境活動サイクルを有効に活用することで、環境負荷低減をはじめとする環境活動は、着実に成果が出てきていると考えております。

本報告書は、当社の環境活動への取り組みについて主要な内容をまとめたものであり、ご高覧いただき当社の事業活動にご理解を賜れば幸いです。



代表取締役 竹村 潔

## ◆会社概要◆

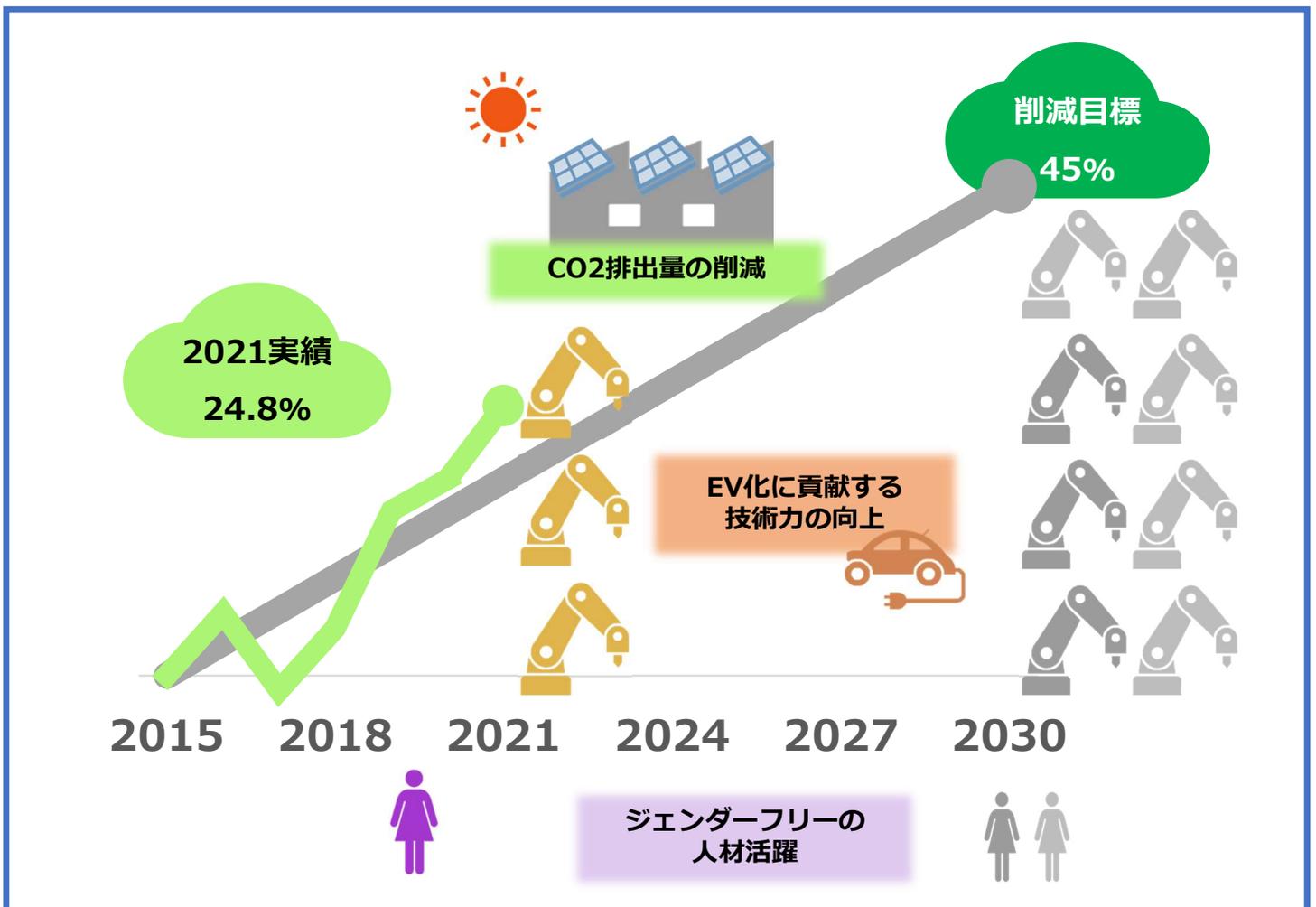
- 会社名 株式会社サンコー
- 代表者 代表取締役社長 竹村 潔
- 事業内容 自動車関連製品、住宅設備関連製品、事務機関連製品、デジタル家電関連製品に関するプレス製品、メカトロ製品及びプラスチック製品の製造販売
- 事業所 本社／〒399-0782 長野県塩尻市広丘野村959番地  
工場／堀金工場、三田工場、福岡耳納工場
- 株式上場 東京証券取引所スタンダード市場（証券コード番号：6964）
- 従業員数 309名



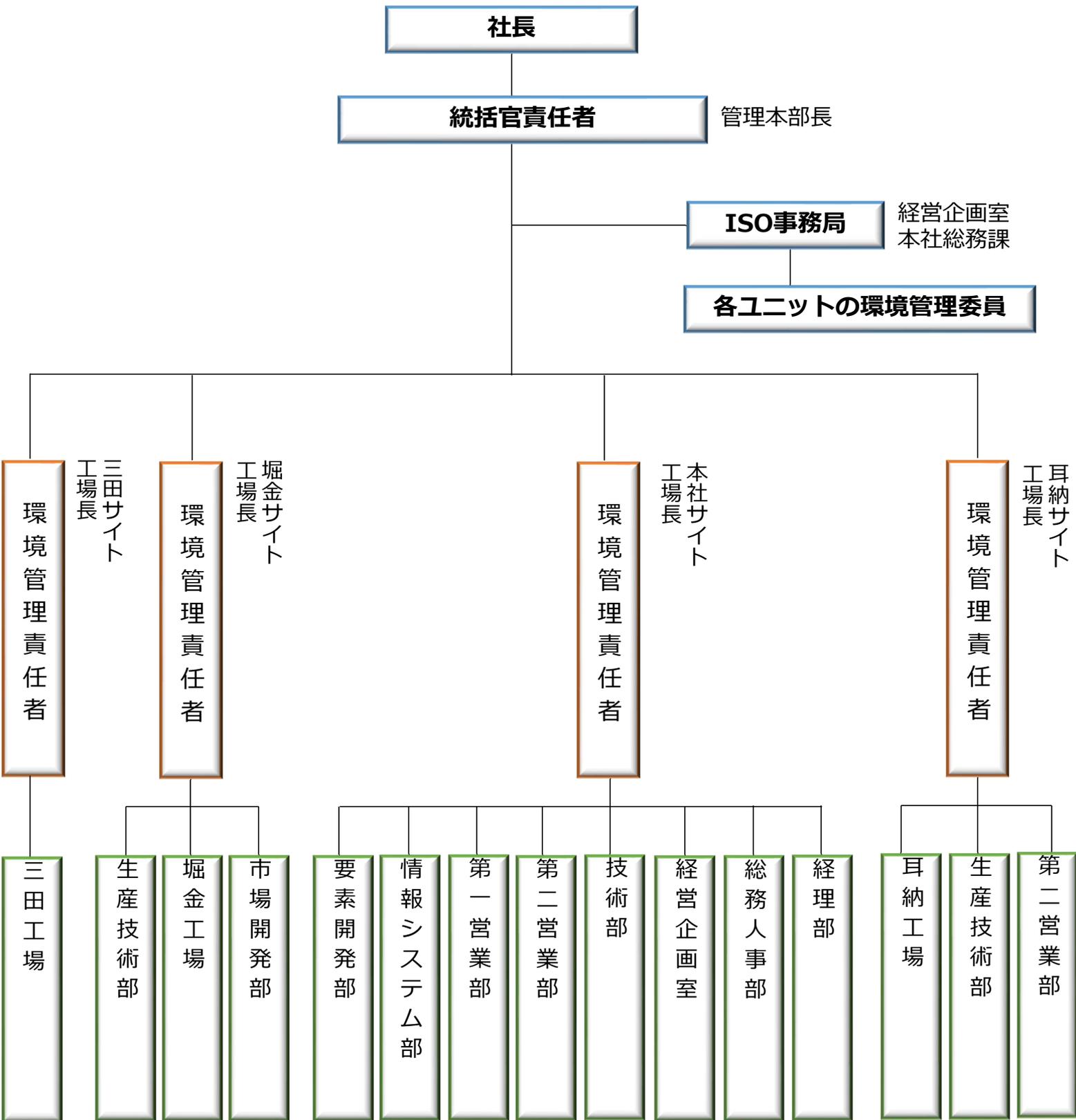
◇ 2030年 SDGs達成に向けた取り組み ◇

サンコーは、持続可能な地球環境の保全に貢献する為、SDGs達成に向けた取組を強化させて頂いております。

重点的な取組み	2030年に向けた指標
事業活動で排出されるCO2排出量の削減	2015年を基準年とし45%削減   
EV車、HEV車の普及に向けて車載電気部品の低コスト化技術の向上	高圧・制御・電装関連の生産量 2020年度比30%拡大 協働ロボットの導入普及率 2030年までに40%（40台/100人）へ   
女性社員の登用推進と幅広い職場への配置	管理者2名の育成 製造部門での女性社員活用 

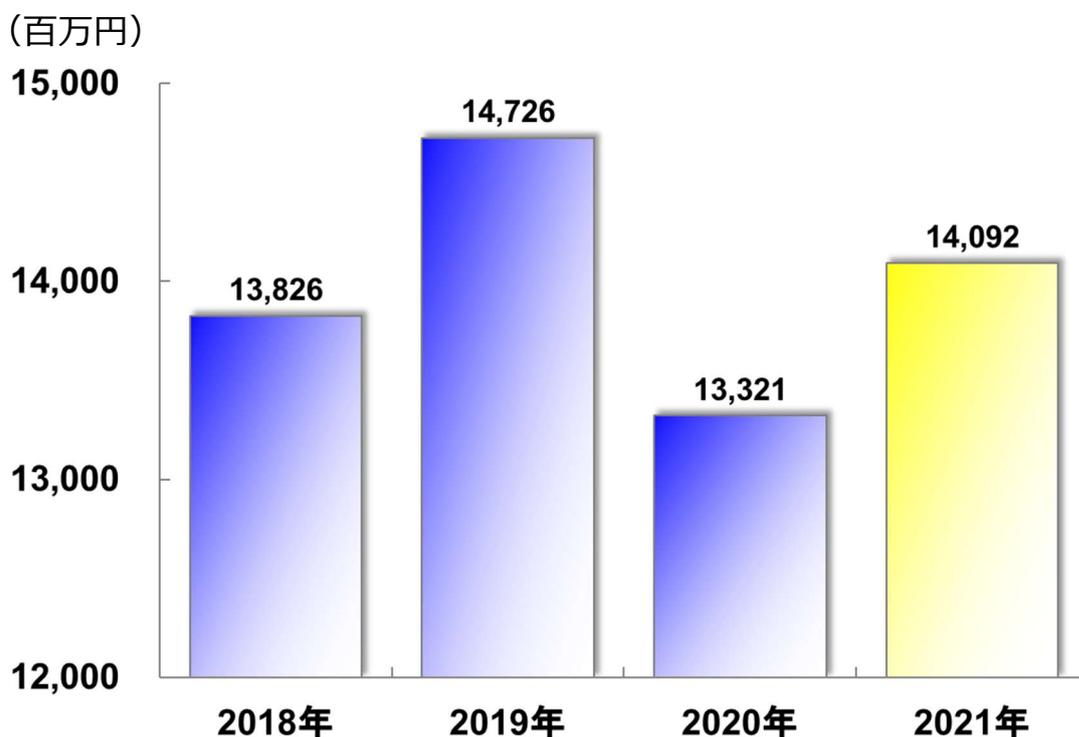


# 1.環境推進体制



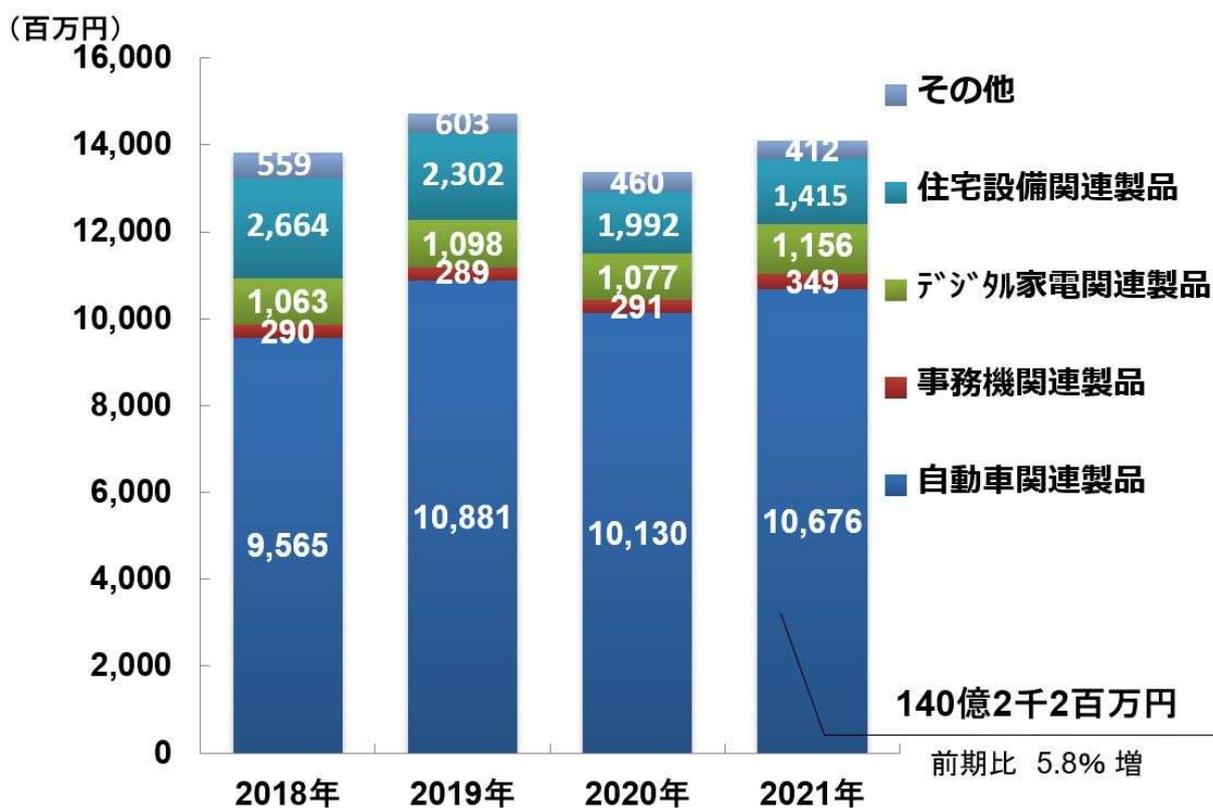
## 2.売上高推移（連結）

当期の売上高は140億9,200百万円、営業利益は5億9,800万円となりました。



## 3.事業の種類別売上状況（連結）

主力製品である自動車関連製品の受注増に加え、その他製品でも増加傾向にあり生産回復基調が継続しております。



## 4.主要設備

### プレス製品量産設備



### プラスチック製品量産設備



### 金型製造設備



### ロボット



## 5.主要製品

### プレス製品



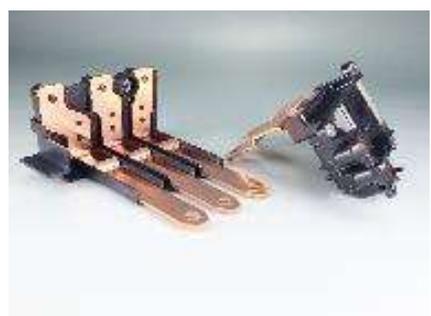
### ヒンジ製品



### プラスチック製品



### 複合製品



## 6.環境マネジメントシステム

### 〈環境スローガン〉

環境負荷を低減し、地球にやさしいもの造りを目指そう。

### 〈基本理念〉

私たちは、地球環境保全を企業の使命の一つと自覚し、地域社会と調和を保ちながら、「環境にやさしいものづくり」に対して常に努力し、「持続可能な発展」の国際理念のもと、循環型社会の構築に貢献していきます。

### 〈環境方針〉

当社は、基本理念に基づき次の方針を定め、地球にやさしい企業を目指します。

1. 次の3項目を中心に、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
  - ① 廃棄物の削減とリサイクル
  - ② CO2排出削減、省資源、省エネルギーを考慮した生産
  - ③ 顧客要求の環境関連物質の削減
2. 環境関連法規制及び、その他顧客の要求事項を遵守することにより環境保全に努めます。
3. 全社員及び協力会社は、環境対応の重要性を十分認識し、各部門毎に目標設定し活動します。
4. 取引先・協力会社・地域社会とのコミュニケーション・連帯を図り、環境マネジメントシステムを効果的に推進するため、教育・啓発に努めます。
5. 環境方針はホームページ、会社案内等に掲載することにより、一般の人が入手できるよう必要な情報の共有に努めます。



## 7. I S O 14001 認証取得

当社では、環境国際規格ISO14001を認証取得しております。

初回登録日 2000年3月23日  
有効期限 2024年1月23日  
認定範囲分類 基礎金属、加工金属製品 電気的及び光学的装置  
ゴム製品、プラスチック製品



### 【外部監査】

2021年12月にSGSジャパン株式会社より、ISO14001の審査を受審いたしました。今回は、維持審査で、全工場を対象に審査が実施され、環境に関わる不適合はございませんでした。その結果、「ISO14001の要求事項に適合し、運用され、継続的に改善されている」との評価をいただきました。

### 【内部監査】

監査の公正・客観性を確保するため、統合内部監査員として資格認定された監査員で監査チームを編成し、内部監査とフォローアップ監査を実施しております。監査結果を経営陣に報告するとともに、被監査部署は指摘事項の是正とシステムの見直しを行っております。

2021年度も全部署で統合内部監査を行い、システム運用に関する重大な指摘事項のないことを確認しております。軽微な指摘事項については各サイト共に速やかな是正処置を行いました。

### ◆環境関連物質の不使用と削減◆

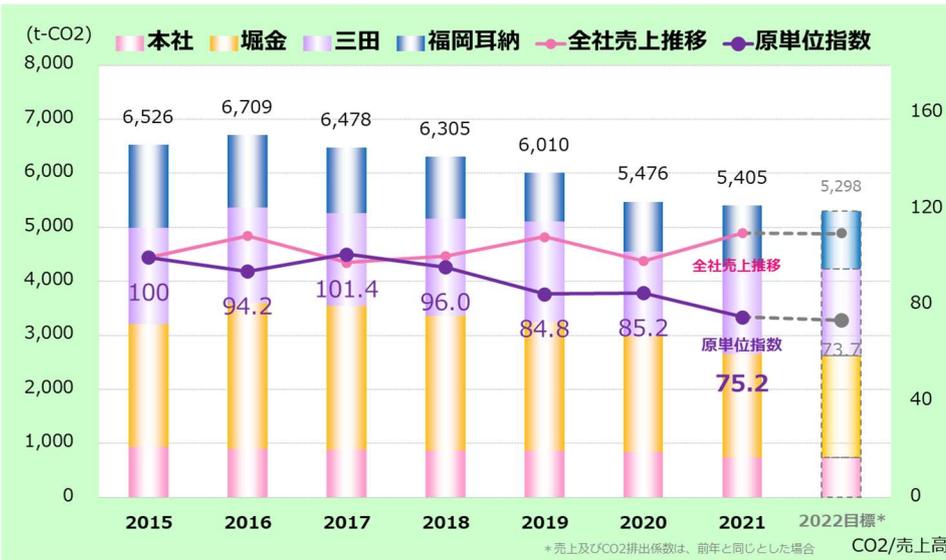
環境関連物質の使用禁止または削減の管理に関し、電機業界中心のRoHS指令（使用禁止10物質：カドミウム・鉛・水銀・六価クロム・ポリ臭化ジフェニルエーテル・ポリ臭化ビフェニル・フタル酸エステル類4物質）及び自動車業界中心のELV指令（使用禁止4物質：カドミウム・鉛・水銀・六価クロム）に則り、お客様の要請に対応すべく、すべての部品を対象に、新規納入時、または変更納入時に必要なデータを提出しております。それらの物質削減の為の代替案をお客様にご提案すると共に、積極的に不使用に取り組んでおります。また、「REACH」はEUで市場に流通している全ての工業化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規制であり、調査依頼に対して適切に対応しています。

## 8.環境目標の達成状況



◇CO2排出量 2030年目標：2015年を基準年とし45%削減

2021年度目標値	実績	判定
18%削減	24.8%削減	○



～結果と次年度の取組み～  
売上高を原単位指標とし、当社が年度毎に使用した電力、燃料の使用量からCO2排出量を算出しています。基準年である2015年度の原単位を100とし推移をみますと、多少の増加する年はありましたが、全体比率の大きい電力の低減効果が現れてきており、減少傾向になっています。

### 堀金工場

作業台などすべての蛍光灯のLED化が完了しました。

また、エアコンも老朽化設備の更新、石油ストーブ（4台廃止）からエアコンへの切替を実施しております。灯油使用の削減によりCO2排出量抑制効果が出てきています。

今後は、エアコン設定温度の見直しを実施し、さらに電力消費量の削減に努めます。



### 三田工場

梓川倉庫の照明 蛍光灯からLEDへの付け替え完了しました。また、三田工場の灯油暖房機を高効率なエアコンに変更しました。

今後は、温度の集中管理により電力消費低減を進め、CO2排出量の削減を進めます。



### 福岡耳納工場

コンプレッサー、エアコンを省エネタイプに交換。

電気代の削減とCO2削減に効果が出ております。

今後は、ソーラーパネルの設置により、購入電力量を削減、更にCO2排出量の低減を進めます。



### 本社

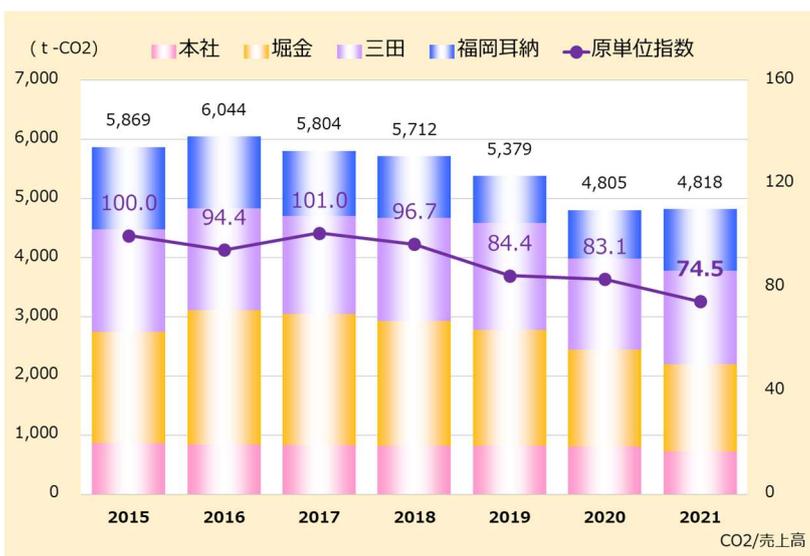
工場棟の水銀灯及び蛍光灯照明から160灯のLED照明へ置き換え実施完了しました。

今後は、事務所棟照明のLEDへの切替え、省エネ機器への切替えを更に進めます。また、こまめな消灯を徹底、効率的な製造設備の利用を進めます。



## ◆電気CO2排出量の推移

2021年度目標値	実績	判定
16.2%削減	25.5%削減	◎



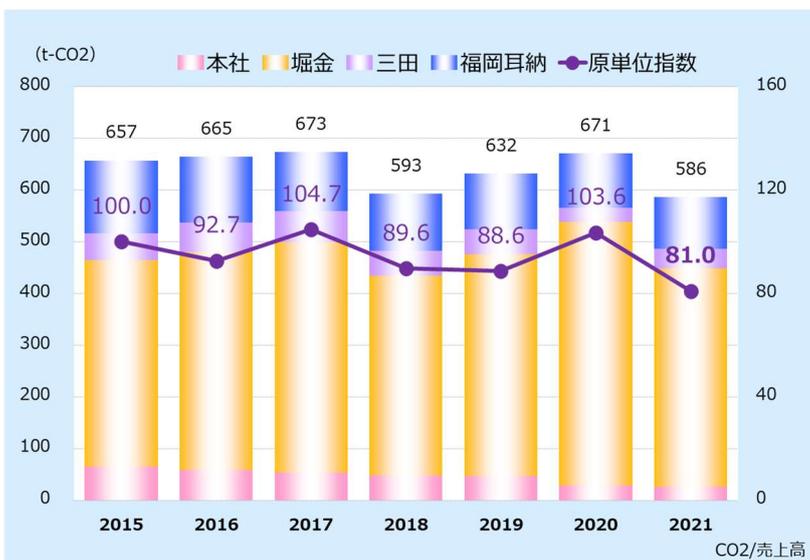
### ～結果と次年度の取組み～

LED化が進み、エアコン設備やコンプレッサー設備の更新により電力量削減に効果が出ています。今後も工場照明に加えて事務所のLED化、省エネタイプの設備を導入し、更なる低減を図って参ります。



## ◆燃料CO2排出量の推移

2021年度目標値	実績	判定
1.8%削減	18.1%削減	○



### ～結果と次年度の取組み～

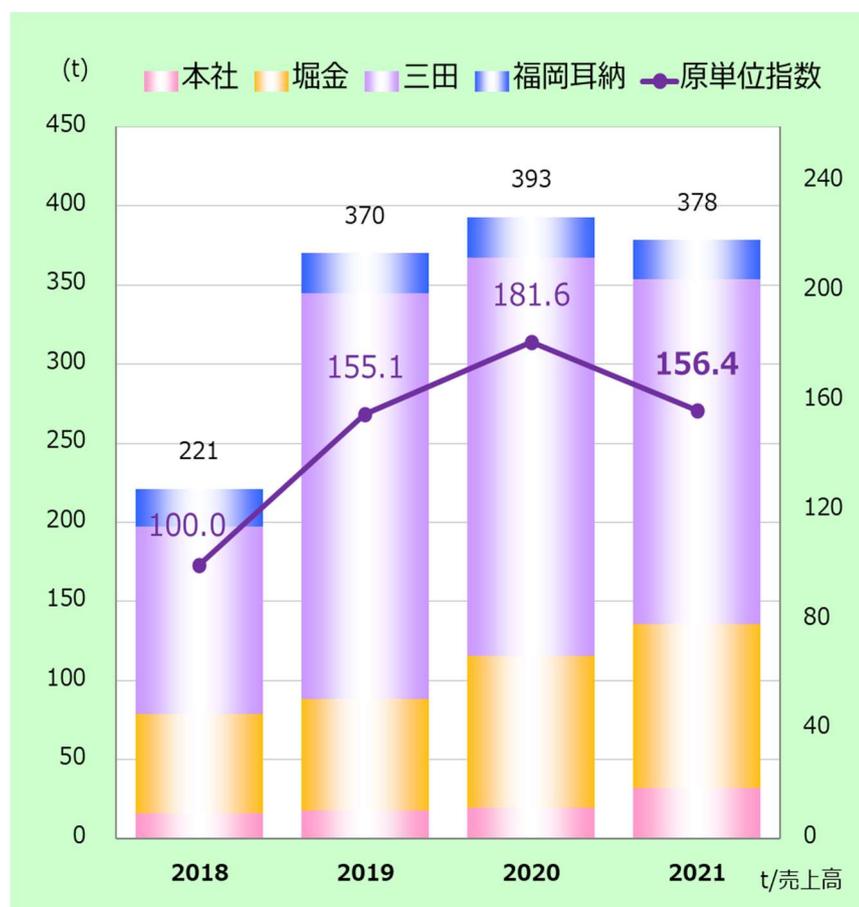
灯油式暖房設備をエアコンへ更新したことにより、燃料使用量が削減され、CO2排出量も減少傾向にあります。引き続き、電気化（省エネ）設備への更新、社有車のHV、EV車への切替を推進して参ります。



石油ストーブ廃棄

## ◆産業廃棄物 廃棄量の推移

2021年度目標値 (原単位目標)	実績	判定
2018年度比 3%増に抑える	56.4%増 (前年度比25.2%減)	×



### ～結果と次年度の取組み～

産業廃棄物は、2018年度を基準年とし、年1%の増加に抑えるよう推移を監視しています。2019年度より中国の廃棄プラスチック類輸入全面禁止の影響を受け、リサイクル量が減少傾向にあります。又、受注量の増加が重なり大幅な増加となりました。2021年度は廃プラスチックの資源化により、廃棄量を抑えることができました。今後も材料、梱包資材等の廃棄量の削減と再利用を進めて参ります。



判定基準 (達成率)	
120%以上	◎
100%以上	○
90%以上	△
90%未満	×

## 9.環境計画内容及びエネルギー使用合理化

省エネ法に基づき、エネルギー管理統括者、エネルギー管理企画推進者を選任し定期報告書を提出しております。  
中長期計画書に基づいた計画は以下の通りです。

内容	該当する工場	実施時期
1.工場設備の省エネ対応 ◆コンプレッサーのエア漏れ対応による効率化促進	全社対象	2013年～2023年
2.蛍光灯のLED化	全社対象	2018年～2025年
3.空調設備交換による削減 ◆空調設備の約3割をインバータタイプに交換	全社対象	2013年～2023年
4.全社的な削減対応 ◆エアコンフィルター及び室外機の定期的清掃の実施 ◆夏季・冬季の温度設定の徹底（測定室・ワイヤーカット室は除く）	全社対象	2013年～
5.太陽光発電システムの導入	全社対象	2022年～2025年
 水銀灯の省エネ照明への切替	全社対象	2019年完了

## 10.環境保全活動

緑地の増加・環境の維持保全に力をいれて活動しています。  
従業員一丸となって、取り組みます！

### 会社周辺の清掃活動



### 緑地保全



### 植栽の剪定



各工場保全活動を行って  
います。



## 附則：環境測定の結果

### ◆騒音規制法 (単位：dB)

サイト	規制値		実施基準と実施状況	結果		備考
本社工場	6時～8時	-	1回/年 2021年4月14日 実施	50	適正	第3種区域：住居の用に合わせて商業・工業等の用に供されている区域
	8時～18時	65				
	18時～21時	-				
	21時～6時	-				
堀金工場	8時～18時	70	2021年10月4日 実施	53	適正	その他の区域：工業地域
	6時～8時	-				
耳納工場	8時～19時	65	1回/年 2021年3月10日 実施	53	適正	久留米市との「環境保全都市づくり協定書」より
	19時～23時	65				
	23時～6時	55				
三田工場	対象外					その他の区域：工業専用区域

### ◆振動規制法 (単位：dB)

サイト	規制値		実施基準と実施状況	結果		備考
本社工場	7時～19時	70	1回/4年 2018年3月12日実施 (次回は2022年度に 実施予定)	45	適正	第2種区域：住居・商業・工業等の用に供されている区域で主として工業等の用に供される区域
	19時～7時	65				
堀金工場	7時～19時	70	1回/4年 2019年9月18日実施 (次回は2023年度に 実施予定)	63	適正	久留米市との「環境保全都市づくり協定書」より
	19時～7時	70				
耳納工場	8時～19時	65	1回/4年 2021年1月14日実施 (次回は2025年度に 実施予定)	43	適正	久留米市との「環境保全都市づくり協定書」より
	19時～8時	60				
三田工場	対象外					その他の区域：工業専用区域

### ◆浄化槽法

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
耳納工場	指定検査機関の検査	1回/年 2022年1月17日実施	適正
本社工場	対象外 (浄化槽なし)		
三田工場			
堀金工場			

### ◆消防法

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果
堀金工場	地下タンク貯蔵所点検	1回/年 2021年9月30日実施	適正
本社工場	対象外 (タンク無し)		
三田工場			
耳納工場			

### ◆PRTR法 (化学物質排出移動量の届出)

サイト	実施基準と実施状況	報告先の官公庁
本社工場	1回/年 (6/30迄) 2022年6月受理	経済産業省製造産業局 化学物質管理課
堀金工場	1回/年 (6/30迄) 2022年6月受理	
三田工場	対象外	
耳納工場		

### ◆廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (産業廃棄物管理票交付状況の報告)

サイト	実施基準と実施状況	報告先の官公庁
本社工場	1回/年 (6/30迄) 2022年6月受理	松本地方事務所 環境課
堀金工場	1回/年 (6/30迄) 2022年6月受理	
三田工場	1回/年 (6/30迄) 2022年6月受理	
耳納工場	1回/年 (6/30迄) 2022年6月受理	久留米市役所 環境部

◆水質汚濁防止法（下水）（単位：mg/ℓ）

◆水質汚濁防止法（雨水）（単位：mg/ℓ）

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果	
本社工場	ジクロロメタン	1回/年 2021年7月5日採取	0.002	適正
	アンモニア性窒素 -		85	
	亜硝酸性窒素 -		0.34	
	硝酸性窒素 -		0.49	
	アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380		35	
	水素イオン濃度 5~9		8.8	
	生物化学的酸素要求量 (BOD) 600		220	
	浮遊物質 (SS) 600		190	
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 30		8.6	
	ジクロロメタン含有量 0.2		1回/年 2021年6月24日採取	
アンモニア性窒素 -	8.6			
亜硝酸性窒素 -	0.02			
硝酸性窒素 -	2.1			
アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380	5.5			
水素イオン濃度 5~9	7.4			
生物化学的酸素要求量 (BOD) 600	150			
浮遊物質 (SS) 600	110			
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5	2.2			
三田工場	アンモニア性窒素 -	1回/年 2021年6月24日採取		1.1
	亜硝酸性窒素 -		0.02	
	硝酸性窒素 -		1.9	
	アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物及び硝酸化合物 380		2.4	
	水素イオン濃度 5~9		6.9	
	生物化学的酸素要求量 (BOD) 600		19	
	浮遊物質 (SS) 600		7	
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5	2.6			
耳納工場	対象外			

サイト	規制値	実施基準と実施状況	結果			
本社工場	カドミウム及びその化合物 0.1	1回/年 2022年2月10日採取	0.002	適正		
	鉛及びその化合物 0.1		0.005			
	六価クロム化合物 0.5		0.02			
	ジクロロメタン 0.2		0.003			
	水素イオン濃度 5.8~8.6		6.7			
	生物化学的酸素要求量 (BOD) 160		8.7			
	浮遊物質 150		31			
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5		0.5			
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 5		1回/年 2021年4月29日採取		1.0	適正
	ジクロロメタン含有量 0.2				0.002	
耳納工場	対象外					
三田工場	対象外					

◆その他、環境法規制

法規制名	適用対象
労働安全衛生法	MSDSの掲示など名称等表示物質、有機溶剤、特定化学物質、ボイラー、フォークリフト
エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）	事業活動に伴って使用する電気、燃料等の削減
環境基本法、環境情報提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律	事業活動全般、環境報告書の発行
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの排出量削減
特定工場における公害防止組織の設備に関する法律	管理者選任
フロンガス排出抑制法	パッケージエアコン冷却機



2022年8月発行

当社は2008年から「環境報告書」を作成しております。  
環境スローガン『環境負荷を低減し地球にやさしいもの造りを目指そう』を  
合言葉に、ISO14001の環境活動の活動データに基づき作成しております。

- ・対象範囲  
本社サイト、堀金工場サイト、三田工場サイト、福岡耳納工場サイト
- ・対象期間  
2020年4月1日～2021年3月31日
- ・参考にしたガイドライン  
環境省「環境報告ガイドライン（2018年度版）」

発行部署/お問い合わせ先

総務人事部 総務課

〒399-0782

長野県塩尻市広丘野村959番地

TEL : 0263-52-2918 FAX : 0263-51-1667

URL : <https://www.sko.co.jp>



株式会社 **サンコー**